

FOCUS UP

佐々木智之選手「これまで以上にボウリングを大切に思うようになりました」



ささき・ともゆき / 1986年7月18日生まれ。神奈川県出身 / 2003年からナショナルチーム在籍。現在プレイングコーチ・キャプテン / NHK杯全日本選抜4度優勝など、国内・国際大会のタイトル多数 / 湘南モノレール所属

まだ収束のめども立たない新型コロナウイルスは、ボウラーの日常生活も大きく変えた。アマチュアの第一人者であり、ナショナルチーム在籍18年、現在はプレイングコーチ・キャプテンとして、チーム全体のまとめ役も担う佐々木智之選手に、このブレイク期間に何を感じ、どのように過ごし、改めてボウリングにどのように向き合おうとしているのかを聞いた。

プラス思考で再始動

勤務する湘南ボウル（神奈川県鎌倉市）も、緊急事態宣言が発出された4月7日から約2カ月間の休業を強いられた。「その間はランニングを中心

に、あとは自宅でできるトレーニングなどをやっていました。また以前に撮った自分の投球動画をコマ送りにして見たり、PBAプロの動画を見て研究などをしていました」

6月末に営業を再開後も、週に一度担当するチャレンジマッチで投げるほかは、週に1回程度の練習と、まだコロナ前のペースにはほど遠いが、限られたなかで、内容の濃い練習をするように心がけている。

「これだけ長期にわたって投げなかったことはないので、練習を再開したときは、どうなるんだろうという不安はありましたが、以前の自分を追い求める

のではなくて、新しい自分を作っていく、どうバージョンアップしていく、と考えるようにしていました。実際に投げ始めて、思ったよりも感覚は鈍っていませんでした。ただ湘南ボウルでは、投球時のマスク着用を義務付けていて、結構息苦しいですね。でもこれが心肺機能の強化につながって、マスクを外せるようになったときに、疲れにくくなったとか、プラスに作用してくれることを期待しています」

取材（7月28日）の時点では、NHK杯全日本選抜選手権の中止は決まっていなかったが、「この状況なので、あまりそこに照準を定めて準備をしていると、また延期や中止になったときに気持ちが落ちてしまうと思うので、来年1月のアジア選手権ぐらいまでを視野に入れながら、どういう練習をしていくかを考えるようにしています」と、ある程度心の準備はできていたようだ。

2022アジア大会に向けて

ナショナルチームも今年に入って、ほとんどの国内・国際大会が開催されていないことに加えて、恒例の5月の強化合宿も延期となるなど休止状態だ。

「このチームになって2年目になりますが、メンバーが顔を合わせる機会がほとんどなくな

ってしまっています。女子は女子キャプテンに任せて、主に男子メンバーと連絡を取り合っています。今は焦ってがむしゃらに練習をすることよりも、まずはコロナに感染しない、感染させないことをメインに考えて生活をしてくれていると思います。ユースの強化合宿が10月23日から25日まで、一般の強化合宿が11月5日から8日までの日程で組まれています。予定どおり実施されれば、そこで少しでもチームとしてのまとまりを図りたいと思います」



▲投げられない期間は、ネットで見つけたストレッチ用の器具を使って、肩周りの柔軟性を保つようなトレーニングを続けていた

2年後にはアジア競技大会が中国で開催される。まだボウリングが正式種目に決定したというアナウンスはないが、そのメンバーに選ばれば、2006年から5大会連続の出場となる。また来年予定されていた男女同時開催の世界選手権も1年延期され、アジア競技大会と同年限りとなった。

「国際大会でいちばん近い予

定は、来年の1月15日から香港で行われるアジア選手権です。この大会も当初の5月開催から2回延期になってこの日程になっているので、そのときの状況でまたどうなるかわかりませんが、世界選手権のアジア予選を兼ねているので、参加する場合はそこで確実に世界選手権への出場枠を取って、2022年はアジア競技大会と世界選手権で金メダルを取ることを目標にと、自分もそうですし、メンバーみんながその気持ちでいてくれると思います」

今年に入って、大会には1試合も出場できていない。練習も、普段の生活も制約があるなかで、ボウリングに向き合う気持ちは変わらない。

「これまで当たり前だと思っていたことが、当たり前じゃないことに気付くことができました。今までよりももっとボウリングを大切にしたい思いが強くなりました」

随時掲載 “社長プロ”鈴木馨の企業散歩④

「ウェブアイカップ」の主催者は年間2000Gを投げる筋金入りのアマチュアボウラー！



第2回ウェブアイカップの開
会式で挨拶する森川社長（1
月13日、新小岩サニーボウル）

今回の訪ね人は私、鈴木が企画・運営に携わっているJPBA承認大会「ウェブアイカップ」を主催する株式会社ウェブアイの森川勇治代表取締役社長です。森川社長は1960年（昭和35年）、神奈川県横須賀市の生まれ。早稲田大学理工学部卒業後、三井造船株式会社に入社。その後、アルテミスインターナショナル株式会社を経て、2000年にウェブアイを設立しました。

「ウェブアイは、プロジェクトを成功に導くお手伝いをしている企業です。宇宙開発、エネルギー供給、オリンピック、万博、防災対策など国家レベルのプロジェクトに関わり、そこに立ちのびるさまざまな困難の解決にあたります。ウェブアイの保有する研究開発組織は

世界でも最大の規模であり、国内の同分野ではトップシェアを保有しています」と森川社長。

現在は早稲田大学、フェリス学院大学、東北大学の非常勤講師も兼務。超多忙な毎日ながら、ボウリングは年間2000Gを投げるというから驚きです。「最初のマイボールは10歳の

とき、15ポンドでした。初めて200を超えたのは高校生のときで、当時通っていた横須賀Aボールの所属プロに『プロになってみないか?』と言われたこともあります。そのときその気になっていたら人生変わっていたでしょうね。今は若い子たちがどんどんうまくなって追い抜かれることがうれしい反面、負けたくないという気持ちも残っていて、彼ら以上に練習しようと思つてセンターに足が向いてしまいます（笑）」

ボウラーとしても研究熱心で、センターではフォームやボールの動きのチェックにも余念がない森川社長。今年1月には「ウェブアイカップ」の第2回大会を開催していただき、好評を博しましたが、そこにはこんな思いもあります。

「尊敬しているNBFの白石雅俊理事長がおっしゃるとおり、『ボウリングの魅力は破壊の衝動』。そして『利害関係のない友達の存在』。経営が大変だったとき、助けてくれたのはボウ

リングの仲間でした。プロトーナメントのことは5、6年前から考えていたし、もっと大企業も巻き込んで活発になったら…と思っています。とても面白いスポーツですから」



▲森川社長（右）と鈴木プロ

実をいうと、森川社長は来年、ウェブアイの創立20周年を記念してJPBA公認大会（プロアマトーナメント）の開催を企画。私の株式会社BELLと、いつも相談に乗ってもらっている男子プロ数名で大会のフォーマットを考えていた矢先の新型コロナ禍。オリンピック

が延期となり、プロボウリングのレギュラーツアーも中止や延期が相次いで、まったく先が見通せない状況です。

私は来年の開催を見合わせることを提案し、森川社長も承諾してくださいました。プロボウラーとしても会社としても、開催していただきたい気持ちは山々ですが、話を進めていってもコロナ禍が収束せず中止となれば、協賛企業様に迷惑がかかります。

「落ち着いたらよりよいカタチで実現しましょう。周りも考えての判断ですからね、正しい決断だと思います」

ボウリングの魅力さをさらに広めていくために「ウェブアイカップ」を承認大会から公式戦へ。森川社長は常に高みを目指しています。

すすき・かおる / 1976年4月27日生まれ、岩手県出身。2018年プロ入り（51期 / ライセンスNo.576）。162cm、右投げ。株式会社ウェブアイ / プロショップナカライメラウンドワン南砂店所属。株式会社BELL代表取締役社長。